

拜啓 久しく仰ぶをたに打ち過ぎました。先生に
 はいつも健康に亘らせられ慶賀の至りに存しま
 す。浩柿以来他星以来指導をうけて定まりま
 たところ此たびまた他潜沼耕で仰る選をうけ
 暗夜に光輝を得てをります。夙くに仰挨拶申し
 あげなければならぬを交つろく家よりとりまぎ水
 入りに至りまゝて甚だや深なまきお才と恐縮つを
 してをります。なほこの後ともよろしくお喜びい
 たいたく存じてを
 新字社在職中や
 ませんで
 までの都市寄食を
 の生活さいたいた
 ますのでお氣も白

拜復 仰る字からびにははのき 拜受
 にははのきにつまましては思ひまうけぬを
 深く仰禮申上まふ。突天先生以来
 遊のよきは遠くうらやましく存じ
 ます。当地月並遊ばかりを語ると足
 いか胸中鬱々としてをります。お寛

仙 かし割
 先鋒
 や
 きこと
 リスム
 ほかに
 人でもシヤーナリスムの弊目からおひ得れは中懐
 に存する才でありませす。
 甚だ勝手なことの申上げ失禮には存じますか。仰喜
 選に討する仰禮として甚だ辞をうやまいた。まをまを
 からいよく仰えをいあれるやう祈りあけます。
 廿二日
 富里村日吉倉
 宮田茂子

格 堂 先生
 侍 使
 宮田茂子 拜

拜啓 寒気厳甚お柄先生日はいよ
 には 指導を得まして厚く仰礼申上ます。
 拙稿 代巻白選一部は手許までさしあけて
 おきました。先生の仰向も未発表のものをお突

便 封
 千葉縣印旛郡
 富里村日吉倉
 宮田茂子